

# 平成 27 年度 学社融合フォーラム 参加報告

技術第三班 伊藤 眞子

## 1. はじめに

「学社融合」とは、学校教育と社会教育がそれぞれの役割分担を前提とした上で、そこから一歩進んで、学習の場や活動など両者の要素を部分的に重ね合わせながら、一体となって子どもたちの教育に取り組んでいこうとする考え方である。平成 27 年 9 月 11 日に山形市遊学館ホールにて学社融合フォーラムが開催され、これに参加したので報告する。

## 2. 日程

### 1. 開会行事

### 2. 全体会（講演）

演題：子供たちの豊かな学びのための教育環境づくり

講師：千葉敬愛短期大学

学長 明石 要一 氏

### 3. 分科会

A：放課後や土曜日等の魅力的な学習プログラムについて

B：地域団体や他の事業と連携した学校支援活動について

C：大学生や教員 OB などの地域住民による「学習支援」について

### 4. 閉会行事

## 3. 詳細

### ● 開会行事

以下の事業説明があった。

「第 6 次山形県教育振興計画」について  
文部科学省「土曜学習応援団」について

小中学生の学力や健やかな体の育成に関する話に加え、今後の少子高齢化に伴う人口減少への対応、またグローバルな人間の育成に関する課題について学ぶことができた。県勢発展の基礎は「人」であり「人間力に満ち溢れ山形の未来を切り開く人づくり」への為に、いのち、学び、地域をつなぐことが必要であることを改めて確認した。

### ● 全体会（講演）

演題：子供たちの豊かな学びのための教育環境づくり

講師：千葉敬愛短期大学

学長 明石 要一 氏

今後の日本の人材を育成する為には、幼児、特に 10 歳までの教育が非常に大切である。この時期の知的好奇心にしっかりと応えることで、子供心豊かに育つと考えている。また、それにより自尊感情が高まり問題意識を持って物事に取組み成長する。子供たちに応えるには、教える側も知的好奇心旺盛でなくてはならない。私達も積極的に学外に出て、子供たちの声に耳を傾け、実際の現場を体験するなどして視野を広げていかねばならないと感じた。

### ● 分科会

A：放課後や土曜日等の魅力的な学習プログラムについて

事例：わんぱく富本塾

B：地域団体や他の事業と連携した学校支援活動について

事例：小国町学校支援地域本部

C：大学生や教員 OB などの地域住民による「学習支援」について

事例：たちかわ夢サポート塾

### ● 閉会行事

## 4. おわりに

鶴岡高専 教育研究技術支援センターでは「科学で遊ぶ」と題して、依頼された地域の主に小学生を対象とした団体に出前実験を行っています。平成 27 年度現時点でも既に約 120 名の小学生に対して出前実験を行いました。人間力に満ち溢れ山形の未来をひらく人づくりのために、今後も気を引き締め活動していきます。